

一般教育等特別講演会 ミュージアムは中立ではない？ (Museums are not neutral?)

Collecting the City #5 Homeless in the City, Amsterdam Museum. 「都市を収集する#5都市のホームレス」展、アムステルダム博物館

日時：12月5日（金）17時40分～19時10分

場所：3101教室

「ミュージアムは中立ではない」というフレーズをご存じですか。これは、美術活動家のラ・タニア・S・オートリーとミュージアム教育を専門とするマイク・ムラウスキーが2017年に始めた運動です。オンラインのTシャツキャンペーンと、ソーシャルメディアのハッシュタグ #MuseumsAreNotNeutralを通じて広まり、以降多くのミュージアム関係者がこの表現を使うようになりました。

ミュージアムの伝える物語は決して中立ではなく、当時の権力者側の視点を反映したものであることを暴くものですが、それだけではありません。それ以上に、ミュージアムが積極的に社会変革に関わるべき存在であることを訴えています。このような運動が広まる背景には、いったい何があるのでしょうか。ミュージアムは社会にとってどのような存在なのか、なぜ変革が叫ばれるようになったのか、そしてみなさんはそれをどのように受け止めるのか。これらを掘り下げながら、共に議論できればと思います。



講演者：村田麻里子氏

関西大学社会学部教授。東京大学大学院学際情報学府博士後期課程満期退学。博士（学際情報学）。専門はメディア論、ミュージアム研究。ミュージアムの思想的・社会的意味に関心を寄せる。主な論著に『増補新装版 思想としてのミュージアム—ものと空間のメディア論』（人文書院、2024年）、「メディアとしてのミュージアム」（『岩波講座社会学〈文化・メディア〉』岩波書店、2023年所収）、「アート／ミュージアムが開く多様性への意識」（『多様性との対話』青弓社、2021年所収）など。

問い合わせ先：稲垣健志研究室 (inagaki@kanazawa-bidai.ac.jp)